WEST ❷

HAKODATE

【ハコダテ・ウエスト】2022 SUMMER

HAKODATE
WESTERN DISTRICT
GUIDE

西部地区で動き出した新しい試み。

街の記憶。——残したい建物

TOWNGUIDE&INFORMATION

西部地区で動き出した新しい試み。

A new attempt in the western district.

コロナの影響で静まり返っていた函館・西部地区に、いま「うれしい異変」が起きている。長らく空白地帯だった場所に新しい店が生まれ、人が集り、声が聞こえてきた。それはまるで、パズルのピースが次々と埋まっていくかのように。その新たな試みの数々に目を向け、その背後にいる人たちの思いに耳を傾けてみた。

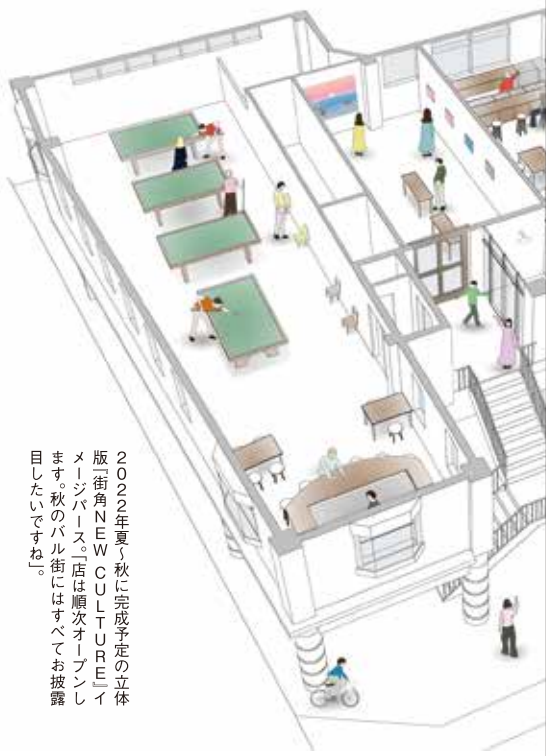
地域に賑わいを取り戻すため、建築家が仕掛けた「街のリノベ」。

●街角 NEW CULTURE

2021年7月の終わり。十字街の銀座通り商店街から金森赤レンガ倉庫群をつなぐ通りを中心に、地域の人々がどこからともなく集まり、まるでコロナ前の活気が戻ったかのように多くの人が街を往来した。『街角NEW CULTURE（ニューカルチャー）』と題して4日間にわたり行われたこのイベントは、新規開業・独立を夢見る人々を公募で集め、5つの会場でチャレンジショップ的な要素を含む28店舗が日替わりで出店。それはかつて函館のあらゆる街角で行われ、地元の人々に親しまれた地域のお祭り『夜市』のようで、懐かしくも新鮮な光景だった。

富樫雅行さん（右）とイベントを支えたメンバーたち。

このイベントを仕掛けたのは、豊川町に事務所を構える建築家の富樫雅行さん。愛媛県出身で、西部地区の街並みに魅せられ2012年に弥生町・常盤坂中腹の古民家を購入し、2年半かけて自らリノベーションして自宅と仕事場としてよみがえらせた。その後も、大三坂の旧仁寿生命ビルと付属土蔵を複合商業施設にリノベーションした『大三坂ビルヂング』（末広町）や1902（明治35）年築の米穀・海産物問屋『旧松橋商店』の復元、その他古建築・古民家を活用したさまざまな店舗や住居など、枚挙に暇のない再生の仕事をこの西部地区で積み重ねてきた。「いろんな古民家再生の仕事をしてきましたが、その一方で親しみのある建物や店がなくなったり、また中央資本のホテルが次々進出したりと、中央市街地が独自性を失ったり衰退していく過程も同時進行で見てきました。次第に、いくら古民家を再生しても街の活気や魅力を取り戻す力にはならないなと。だったらもう少し踏み込んで建物だけじゃなく『街』そのものと関わり合えることがしたいなと思ったんです」これは、この10年愛すべき西部地区に身も心も捧げてきた



2022年夏〜秋に完成予定の立体版「街角NEW CULTURE」イメージパース。「店は順次オープンします。秋のバル街にはすべてお披露目したいですね」。

昨年行われた『街角NEW CULTURE』の模様。富樫さんはサポートと意思決定の役目にまわり、当時インターンで在籍した東京工業大学の御家瀬光さんが中心となって企画運営。若い力が主体となって動いたイベントだった。

函館・西部地区。そこはコーヒーが似合う街。

●近年この街に増え続けるコーヒーの店。

諸説あるが、函館はコーヒーが日本で初めて飲まれた街と言われており、昭和中期においては街の規模に対しての喫茶店の数が相当多い街だった。さらに西部地区においては、1932（昭和7）年にコーヒー販売の代表格である地元企業『美鈴』の前身『鈴木商店』が栄町で、また同じ年に商人・斉藤寛治郎が開業した『十字屋食料品』が末広町で、それぞれコーヒー豆の販売を始めた。それまで北海道では豆の取り扱いの事例が見られなかったため、西部地区は北の大地におけるコーヒー文化発祥の地といえる。そこに近年コーヒーを取り扱う店が急増中で、これもまた西部地区で動き出した新しい現象だ。

THE BLACK ROASTERS

函館山ロープウェイ向かいの古民家を改修したコーヒー店。焙煎機は使わず、ストウブのココットを用いた鉄鍋直火焙煎が特徴。ハンドロースト＆ハンドドリップにこだわる。

函館市青柳町8-16　@blackroast18（Instagram）

十字屋珈琲・旧函館区公会堂店

函館の珈琲文化の開拓者『十字屋』が手がける新たな支店。国重要文化財の同所に別店舗が開業するのはきわめて異例のこと。明治文化の香りを感じながら極上の一杯を提供。

函館市元町11-13 旧函館区公会堂 大食堂内　0138-22-1001（代表）

富樫さんなりの「街のリノベーション」だ。

まずは2019年、富樫さんは地元企業・池見石油店が所有する『カルチャーセンター臥牛館』を購入して引き継いだ。ここを拠点に、地元の人々が行き交う交差点のような地区にできないかと思案。近隣に眠っていたいくつかの物件を購入・借用し、新規開業を希望する人々の独立への足がかりとなるポップアップストアの場として提供した。そこで生まれた人々との新しい出会いや縁が重なり、今度は街ぐるみのイベントとして前述の『街角NEW CULTURE』へと発展していく。そして2022年、この試みはイベントの枠組みを超えた「立体化」に向けて進んでいる。2021年、カルチャーセンター臥牛館の向かいの角地にある旧『king of kings』と旧昆布館を購入し、大規模なリノベーションを施した複合的な商業・文化施設につくりかえる企画が現在進行中だ。すでに一部の店舗は入居済で、2021年暮れに喫茶とバーとビリヤード場を融合した『ライオンのサム』がオープン。そして今年の夏前には『富樫雅行建築設計事務所』がここに移転し、ギャラリーやイベントに利用できる多目的スペース『街角POP UP』や飲食店の短期・短時間営業も可能なシェアキッチン『街角キッチン』、さらに解体した家から出る古材や古家具を使ったリメイク家具や雑貨を販売する『RE:MACHI＆CO』の店舗・作業場、函館出身者が札幌からUターンして開業するハワイのアロマセラピーとハーブティーの専門店などのオープンが決まっている。

魅力がない街には人は集まらない。人が集まってこそ街は輝きを取り戻す。富樫さんの挑戦はまだ始まったばかりだ。

（上・左）立体版『街角NEW CULTURE』で先陣を切ってオープンした『ライオンのサム』。（下・左）『街角NEW CULTURE』の会場の一つである古民家に出店した『街角クレープ』は、その後同じ場所で本格的に独立開業。（他2枚）イベントに出店したポップアップストアの様子。

静かな町に生まれた新たな賑わい。何かがはじまる予感がする。

●大町改良住宅

近頃、末広町界隈に人が、とりわけ若い世代の人の姿を見かけるようになった。コロナ禍だからということもあるが、彼らは雰囲気的に観光客ではなく地元に暮らす若者たち。例えば二十軒坂下のセレクトショップ『LOFT』の週末は、サンドイッチ屋『HOTEIYA』、流しの花屋『#fff』が店を開き、店先には吟味したナチュラルワインを飲ませる『nurture OR NATURE』のテーブルと椅子が出され、とても楽しげだ。さらに2021年には前項で紹介したRE：MACHI&CO（富樫雅行建築設計事務所）主催のイベント『街角NEW CULTURE』が十字街周辺で夏と秋に開催され、西部地区にそれまでなかった雰囲気の、小さくも一過性ではない賑わいが広がっている。そこにまるで追い風のように現れたのが『大町改良住宅』だ。もともと1階のテナントにはコインランドリーやドーナツ店が入っていたが、その並びで長らく空いていた物件に、珈琲屋、古着屋、ハンバーガー屋が続々とオープン。「大町・路地裏」というひそやか、かつ新鮮な雰囲気もあいまって、注目を集めている。

ちなみに『改良住宅』とは、主にバラックなど老朽化した木造住宅が密集し、火災などの危険がある地区を整備した際、従前居住者が入居するための市営住宅を指す。1階部分は、そこで商売を営んでいた者が所有権を持ち店舗として利用するケースがある。大町改良住宅は1972（昭和47）年築で、かつては1階部分に中華食堂、鮮魚店、青果店などが軒を連ねていた。数年前に市で建物の耐震改修やエレベーター設置が施されている。

この改良住宅プロジェクトの中心人物として、テナント仲介をしたのは（株）蒲生商事の常務取締役・蒲生寛之さん。所属する箱バル不動産では、西部地区の古建築や街並み保存に尽力する一人で、同住宅には、2年前にコインランドリーのテナントの売買があったことをきっかけに可能

（株）蒲生商事の常務取締役・蒲生寛之さん。

2021年10月、大町改良住宅横の空き地を利用して開催された『ローカルマーケット in 大町改良ひろば』。2日間にわたって、アパレル、雑貨、パン屋、花屋などが出店した。

Specialty Coffee COCORO

2021年、十字街アーケード通りに誕生。東京を拠点とする名店・堀口珈琲のグループ「LCF」加盟店として、高品質のスペシャルティコーヒーの生豆を仕入れ、自家焙煎で提供する。

函館市末広町7-8 えびすまち高田屋1F　080-5850-9326

YAMAYOSHI COFFEE

西部地区の中心道路である通称・弁天末広通りで開業して6年目。昨今のいわゆる「カフェ」に属する店とは異なり、どことなく古き良き「街の喫茶店」の香りがする場所。

函館市元町31-24　0138-24-3900

Maayan Koffee

宝来町電停そばの電車通り沿いにある古民家でひっそり営む自家焙煎豆の直売店。中深煎りのブラジル、深煎りのインドやデカフェなどの豆を販売。基本的に週末のみの営業。

※住所非公開　@maayankoffee（Instagram）

ブルースの木 Old Style Roastery

築75年超の蔦の葉に覆われた木造一軒家をリノベーションしたコーヒー豆専門店。15種類前後を揃える豆はスペシャルティコーヒーの自家焙煎で、と店内試飲もできる。

函館市宝来町7-3　080-1870-5585

建物正面側から見た大町改良住宅の一部。こちら側にはコインランドリー、今夏オープン予定のデザイン事務所兼カフェ、ハンバーガー店が並ぶ。奥に進むと、珈琲店、建築設計事務所、調剤薬局、古着店が続く。なお、その一角には1週間から借りられる短期賃借テナントがあり、利用者を随時募集中だ。

（上・下）大野彩奈さんと伊原丈一郎さんが営む古着店『9.（ナインドット）』。レディースはトップスで3,000円～と手ごろな価格帯をそろえる。（下下）『BURGER SERVICE WALDEN（バーガーサービス ウォールデン）』店内。炭火焼の“荒々しい”パテに合わせたタルタルソースと自家製ケチャップが味の決め手。

性を感じ、その後、ほかの空き店舗の所有者を探し出して買い取りも行った。「以前手がけた大三坂ビルヂングと比較すると、大三坂～は建物に歴史的価値があるため“再生”の印象が強かったと思いますが、今回の大町改良住宅は、建物ありきというより使う人次第でどのようにも活かせるという面白さがあります。しかもこれだけ一気にオープンが続くのは非常にポジティブな流れ。個人的には、西部地区でのこれまでの活動がひとつ、実を結んだようにも感じていますね」

ここのテナントの顔ぶれは個性派揃いだ。ハンバーガーショップ開業を目指し、長らく東京や札幌で経験を積んだ店主・米原久佳（ひさか）さんが満を持して開いた店『BURGER SERVICEWALDEN』。開業の地を札幌にする案もあったが、故郷・函館で、しかも学生時代よく通った西部地区にこの物件があることを知り、ここへの出店の決断に至った。アパレルショップ『9.（ナインドット）』は大野彩奈さんと伊原丈一郎さん2人の店で、ユーロミリタリーなどの古着と、レディースにはトレンドの韓国ファッションをそろえる。店を開くにあたって、西部地区で物件探しをしていた際、この場所を見つけて入居を決めた。他にも、旅先で散策しながら良い店を見つけたときの喜びを知る店主が路地裏のひっそりとした風情に惹かれて開いた自家焙煎珈琲店『鳴々門珈琲（なくなるとコーヒー）』。また2021年1月、大正初期築の弁天町・旧堤商会3階から事務所を移した建築家・伊勢真樹さんの『伊勢真樹建築設計事務所』もここへ。さらに今夏、電車通りに面した空きテナントにデザイン事務所を兼ねたカフェの新規オープンも控えている。

新しい店、新しい流れ。ここ大町・路地裏には、何かがはじまる予感が満ちあふれている。

五稜郭の人気店が届ける西部地区への定期便。

●MUJI×青柳町が生む新コミュニティー

青柳町会では町全体の高齢化による買い物難民の問題解決に向け、2021年11月より毎月『無印良品』の移動販売「MUJI to GO」を招いて、無印良品としては全国初となる町会館での販売会を開催。企画したのは蒲生寛之さんや『シエスタハコダテ』統括責任者の岡本啓吾さんなど青柳町会の若い役員たちで、食品を含むおよそ100種の商品の販売に加え、時折地元のベーカリーやコーヒー店の出店も合わせたローカルマーケットへと発展。定期的な町イベントとして定着しつつある。

本屋のない街に小さな私設図書館が誕生。

●きらく荘×谷地頭町 マイクロライブラリー

学生を中心とした若者たちが西部地区の古民家を再利用して共同生活をする『函館「荘」プロジェクト』。弁天町の『わらじ荘』と『みなも荘』、谷地頭町の『きらく荘』の3拠点では、それぞれが近隣住民と交流を深め、地域イベントの運営などにも積極的に参加。また、きらく荘では新たな試みとして「谷地頭町マイクロライブラリー」を企画。地域の子どもたちと一緒につくった道南杉の本棚を町内3箇所に設置し、そこにある本を誰もが自由に借りられる私設図書館を展開中だ。

C L U M N

目覚ましい新店開業が続く十字街アーケード通り

老朽化が進み、空き店舗が目立っていた十字街アーケード通り（末広町7・8）でも異変が。2021年の4月以降、新鮮な魚介類を売りとする料理店『遊魚はる』、電動バイクで西部地区をめぐるツアーを提供する『旅ショップmina』、高品質のスペシャルティコーヒーを扱う『Specialty Coffee COCORO』、ドライカレー専門店『函館ナントカ食堂』が立て続けにオープン。経営者は総じて30～40代。旧市街独特の風情に魅力を感じて出店を決めた人々が、いまこの場所に新しい風を呼んでいる。

街の記憶

残したい建物

さまざまな歴史的建造物や古民家があり、
それが街の景色となっている西部地区。
古建築を残す人、そして活かす人。
いつまでもそこにあってほしい大切な存在。

川越電化センター

諸説あるが1921（大正10）年〜1926（大正15）年頃建築のものと言われている。当初はロシアの貿易商『リューリ商会』の社屋として建てられた。

函館市末広町18-30

太刀川家住宅店舗

米穀商、漁業などで財をなした太刀川家の店舗兼住宅として1901（明治34）年に建造された。現在はゲストハウスとして使用。国指定重要文化財。

函館市弁天町15-15

ロフト

1926（大正15）年築の旧日本製網船具倉庫。このレンガ造りの平屋は1980年代にカフェバー・ギャラリーとなり、現在は洋服店とサンドイッチ店が入居。

函館市末広町4-11

千秋庵総本家

1860（萬延元）年創業の老舗菓子屋。建物の築年は不明だが、160年超の歴史が刻まれたいい顔をしている。看板の文字は俳人で随筆家の河東碧梧桐作。

函館市宝来町9-9

加賀谷旗店

1897（明治30）年創業。1914（大正3年）に移転し、現在地に工場兼住宅を建てた。昭和9年の函館大火でも生き残り、建造当初の佇まいを残す木造建築。

函館市大手町10-12

港ヶ丘教会

1934（昭和9）年の大火直後に建てられた旧日本基督教会・函館相生教会。外観の意匠や佇まいはそのままに、現在はカフェや洋服店が入居する複合施設へ。

函館市元町29-15

ozigi

酒問屋・本久商店の倉庫として大正期に竣工。力強い屋号表記と青の外壁が印象的な煉瓦製建造物で、現在はクラフトビールの工場兼店舗として活用。

函館市末広町16-13

函館根津製餡株式会社

住宅地に紛れながらも風格あふれる和風の町家建築。住宅部分は函館大火の翌年にあたる1935（昭和10年）築、付属蔵は1907（明治40）年頃に建てられた。

函館市旭町7-19

相馬株式会社

1913（大正2）年築のルネサンス風事務所建屋。グリーンの外壁色やペディメント（西洋式切妻破風）などの特異な意匠が目を引く伝統的建造物。

函館市大町9-1

はこだて工芸舎

1934（昭和9）年、酒問屋の梅津商店として建築。長らく眠ったままの建物だったが、美術・工芸品販売の『はこだて工芸舎』としてよみがえった。

函館市末広町8-8

函館市の景観登録建築物制度について

函館では官民が一体となって都市景観を維持するための「函館市都市景観条例」を制定し、現在はこれまでの自主条例から景観法に基づく条例に改正、独自の各種施策を展開している。その中のひとつ『景観登録建築物制度』は、西部地区の歴史的な景観を特徴づけている建築物を登録建築物としてその価値を評価しつつ、建築物を所有し維持・保全に努めてきた人々への支援を行うことで、未来に向けた歴史的景観の保全・誘導をはかる制度。これを活用する上でのメリットとして、家屋の固定資産税および家屋の都市計画税の全額免除や、建物を貸したり手放す場合に函館市が窓口となり新たな所有者を捜すフォローを受けられる。ちなみに「景観形成指定建築物」等の場合は増築や改修、外観の変更に対してさまざまな制限があるが、こちらの制度には特に制限がないのもポイント。現在、登録を受けている建物としては上に掲載した『ロフト』（末広町）や革雑貨販売の『OZIO本店』（元町）などがある。

函館市都市建設部　まちづくり景観課
0138-21-3388（景観担当）

函館公園・日本初の市民参加型公園ができるまで。

HISTORY OF HAKODATE PARK.

この国においていち早く世界に向けて門戸を開き、開港都市として諸外国の文化・思想を取り入れた街である函館には、なにかと「日本初」という常套句がついてまわる。日本初の洋式築造城郭である五稜郭をはじめ、日本初のコンクリート製寺院・東本願寺函館別院、日本初の銀盤写真撮影、日本初のストーブ製造など挙げはじめるとキリがない。そして、ここから紹介するこの場所も数多ある「日本初」の一つに該当する。1879（明治12）年11月に開園した青柳町の函館公園は、日本初のパートナーシップ型都市公園と言われている。わかりやすくいえば、本来は官主導の施設でありながら街の有力者が資金や土地・資材などを提供し、役人だけでなく一般市民がボランティアとして集い、労働力を惜しみなく注いで完成した異例の洋式公園ということだ。この史実についてはあらゆる文献に繰り返し記され、また函館公園入口近くに設置された石碑にもその経緯が書かれているため、ご存知の人も多いだろう。しかし「なぜそうなった？」に対する明確な回答は、依然としてぼんやりとしたままだ。ここからは、その肝心の部分である

函館公園の表口そばにある石碑には、市民参加の上で完成に至った経緯が刻まれている。

上／1879（明治12）年、ついに完成の日を迎えた函館公園。立場や身分を超えてともに祝いながら記念撮影した1枚。
右／開園から3年後の1882（明治15）年、北海道における書店の先駆けである函館『魁文社』から発行された木版印刷版画。大錦3枚組で、函館公園を描いた錦絵としては唯一のもの。背景には函館山（絵の中では臥牛山と表記）が描かれ、その手前に市民で築き上げた公園内の明治山が、函館山に似た形で描かれている。

「なぜ、当時の函館市民は見返りを求めずこの公園づくりに情熱を注いだのか」という疑問について、可能な限り迫ってみたいと思う。

●

今回の取材に協力してもらったのは、郷土史研究家の中尾仁彦さん。この企画の核心に迫る前、意外な事実を教えてもらった。函館公園がつくられた経緯をさかのぼると、一番最初のきっかけをつくったとされているのがイギリス人の函館駐在領事リチャード・ユースデンとその夫人。開港以来、横浜や神戸では居留外国人が増え、日本政府は条約上の取り決めにより彼らの暮らしに不可欠な「公園」を整備する必要があったため、横浜に「山手公園」や「横浜公園」、神戸に「東遊園」などがつくられた（そもそも、それまで日本に『公園』という概念自体がなかった）。函館も横浜・神戸と同様に、外国人が大勢暮らしていたがこの2都市ほど数は多くないということで「居留外国人のための公園整備」という条約の縛りは適用されなかった。これに異をとなえたのがユースデン夫妻だ。夫妻は地元の有力者であり豪商だった初代渡辺熊四郎や今井市右衛門、平塚時蔵らに対し「立派な都市には立派な公園が必要」と説き、彼らもその熱意にほだされて資金を提供し、開園に向けて大きな一歩を踏み出した。「一般的な史実としてどうしてもリチャード・ユースデンの存在が前に出がちですが、函館公園をつくるまでの働きかけは夫人主導だったとユースデン本人がのちに明かしているんですよ。実際、開園に際して夫人はライラックやセイヨウグルミを植えたり、公園内の園芸草花の

函館の街を、歴史と気品をまとって走る。

●市電ラッピング広告車両『五島軒号』

2020年の春。ある広告ラッピングを施した一台の市電車両がデビューし、話題を呼んだ。広告主は1879（明治12）年創業のレストラン『五島軒』。緑がかった重厚なボディカラーに、ブロンズ色で染め抜いた文字と模様。ほぼこの2色のみで構築されたデザインで、一切の無駄を削ぎ落としたその潔さが独特の品格を生み出し、市民を魅了している。

デザインを担当したのは函館デザイン協議会・会長の岡田暁さん。「これを広告媒体として考えるのを一切やめて、函館の街を、特に西部地区を走って初めて完成するデザインを目指しました」一方、五島軒の代表取締役社長・若山豪さんは「このカラー電車を走らせることに決めた頃は、コロナの影響で観光客も地元客も激減したあたり。余計な経費をかけるべきじゃないという声も社内で挙がりました。でも、街が日々沈んで色を失った時期だからこそやるべきだと思い、GOを出しました」

市電・五島軒号。この車両の登場以降、街と調和のとれたデザインの車両が増えてきた。

西部地区の歴史遺産であり、シンボル。

●十字街の函館市電操車塔跡

市電・十字街電停前。クモの巣のように張り巡らせた電線の下に佇む函館市電操車塔（以降 操車塔）。1939（昭和14）年に、市電交差点での信号表示とポイント切替を手動によって行うために建てられたもので、十字街の他にも大門や五稜郭、万代町にも存在した。十字街の操車塔を含め、これらは平成に入ってまもなくその役目を終えたが、旧北海道拓殖銀行（その後は旧北洋銀行）に残った市内最後の操車塔は撤去されることなく、現在地に移設され函館の産業遺産として残されている。「撤去するという話もありましたが、十字街という場所で古いものを大事にしていこうという皆さんの気持ちもあり、街のシンボルとして残りました。安全性を考

函館公園の事業計画において先陣を切って牽引した
函館駐在領事リチャード・ユースデンと夫人。

栽培指導を担ったりと園芸の部分に力を入れた。いまの緑豊かな函館公園の姿を見れば、その夫人の思想が反映されているのがよくわかります。そんな夫人の貢献もさることながら、一番の鍵はユースデン夫妻が親日派を飛び越えて『親函派』だったということ。だからこそ横浜、神戸にあるものが函館にないことを嘆き、真っ先に行動を起こしたんだと思います」リチャード・ユースデンは幕末から明治初期にかけて22年間日本に在留し、そのうち14年間は函館に在勤。この街に特別な思い入れをいだいたのは必然だったと想像できる。

●

函館に都市型公園をつくることを提言したユースデン夫妻が、その「つくり方」に対し強く求めたのは市民参加型であることだ。このユースデンの働きかけを受けた初代渡辺熊四郎は資金提供だけでなく、前述の今井、平塚らと公園世話係を組織して函館市民に向けて「一緒に作ろう」と呼びかけた。その話は口コミで町中に駆け抜け、整備工事が始まるころには近隣住民、寺の僧侶や檀家、商店街の商人や芸者衆まで集い、工事現場監督として陣頭指揮をとった浅田清次郎（谷地頭の料理屋経営）のもと労力を注いだ。一方、開拓史の役人も公園予算のさらなる獲得に向けて奔走した。この史実に対し、「美談が過ぎる」「あまりにも出来過ぎ」と鼻白んだり、懐疑的になる気持ちをいだくのもよくわかる。実際、よくできた話だ。しかし、当時は官に任せきりにはできない当時の社会的背景があり、それによって市民に「自分たちがやらねば」という自覚が芽生えたという根拠もある。明治初期、すでに北海道の首都にする前提で開発が進められていた札幌には国から潤沢な予算が投入されたが、函館に対しての開拓予算は少なく、公共事業に満足な予算をまわせないのが実情だった。それに加えて函館市の懐を圧迫したのが「大火」だ。「函館は明治に入ってから1年おきに大火が起きて、昭和9年の函館大火まで100戸以上焼失した大火が26回あった街です。もう市もお金がないわけですよ。そうなると芽生えたのが相互扶助の精神。渡辺さんをはじめとする函館四天王と呼ばれる人たちがお金を出して、足りない分は官が出す。一般庶民も親戚兄弟や、商人同士でちょっとずつ寄付を出し合う。なぜならみんな官に頼ることができないのがわかってるから。外国の思想がいち早く根付いたのも大きいと思いますけど、お互い金や労力を出し合って支え合うという相互扶助の精神があったのが、当時の函館だったんだと思います」と中尾さんは分析する。

●

かくして完成した函館公園は、いつの時代も全世代の市民にとって憩いの場として愛され、今年で1433年目を迎えた。ここに先駆けてつくられた横浜公園はいまやその大部分が野球場（横浜スタジアム）に占拠され、神戸の東遊園も大幅に縮小。ともに当時の面影はなく、ここ函館公園だけが明治初期につくられた日本の都市公園としては唯一原型をとどめている貴重な場所だということを最後に付け加えておこう。

函館市中央図書館所蔵の古写真より。上は開園して間もないころ、公園内にあった『函館ホテル』なる宿館。また当時は桜餅屋やサッポロビールが営業する休憩所もあった。下は色付けされた大正時代における公園の桜の模様。

函館公園のランドマークとしておなじみの中央噴水広場。夏場になると子どもたちが元気に水遊びをする風景は、昔も今も一緒だ。

えればいつまで残せるかはわかりませんが、補修しながら見守りたいですね」（函館市企業局交通部・廣瀬弘司さん談）。

中はさすがにもぬけの殻と思いきや、当時使われていた信号とポイント切替の制御盤がひっそりと残されている。

銀座通りの景観を守って共存する。

●株式会社 青函設備工業

1966（昭和41）年の設立直後から銀座通りに社屋を構える（株）青函設備工業は、2020年の創業55周年の節目に新社屋を建設。街の景観を守ることに徹したモダンな造りで、界隈の雰囲気と見事に調和している。「歴史ある場所ですから大正ロマンを意識した建物に一新しました。函館におけるコンクリート建築発祥の場所にならって、こちらもコンクリート造り。そして、見栄えだけでなく、消費エネルギーの少ない省エネ（ZEB）の建物であることも特徴です」（代表取締役・斎藤さん）。社屋前には街灯の役目も兼ねたクラシックな時計を設置し、宝来町会に寄贈した。

写真上が新社屋全景。右端に見えるのが宝来町会に寄贈した時計。写真下は旧社屋で、老舗の有田薬局も入居していた建物。資料等から1934（昭和9）年以前のものと推測されている。

WEST HAKODATE(ハコダテ・ウエスト)
2022年3月31日号
発行／函館市西部地域振興協議会（事務局）
〒040-0053 函館市末広町14-12 金森商船(株)内 0138-23-0350
編集／peeps hakodate 編集部
※本誌記事・写真・レイアウトの無断転載を禁じます。

TOWNGUIDE & INFORMATION

西部地区の新たな ブランドを築くために 街をRe-Designする。

函館市、函館商工会議所、地元企業8社、政府系ファンド『地域経済活性化支援機構』の出資による第３セクターのまちづくり会社『株式会社はこだて西部まちづくRe-Design』が2022年7月に設立された。函館ブランドの価値の源泉は「西部地区」にあると考え、将来世代を西部地区へ居住誘導する目的を持つと同時に、この街に今あるものを活かした新しい函館西部地区ブランドを目指している。主な事業は西部地区の低未利用不動産や公有不動産等の利活用事業、函館市が推薦する「共創のまちぐらしプロジェクト」「町会活性化プロジェクト」など地域ニーズに合わせたまちづくり事業を支援する。

現在、再整備事業の一環として進めているのが元町公園内の『旧北海道庁函館市庁庁舎』をレストラン活用するプロジェクト。2022年8月開業予定。
写真／函館市観光公式情報 はこぶら

●

元町公園に コスプレイヤー大集結。 新たな夏の風物詩。

2015年に第1回が開催され、これまで計7回開催された『函館コスプレ』。毎年7月、メイン会場の元町公園を中心とした西部地区の名所に、市内外から集ったコスプレイヤーたちが撮影会などを行う参加無料・見学自由のイベントだ。企画・運営するのは地元のサバイバルゲーム（以降 サバゲ）チーム『H.R.C.T』から派生した実行委員会の面々。メンバーたちは、地元コスプレ人口の潜在的な数と、新しい観光資源としての可能性を見出し、「夏の屋外」という開かれた世界でのコスプレイベントを提唱。回を重ねるごとに参加者が増えていき、2018年と2019年には入場者がついに1万人を超えた。遊びで始めたイベントが、気がつけば函館イベントガイドの年間行事にも記載されるように。函館の新たな夏の風物詩として定着しつつある。

昨年は入場規制をかけながらも3,000人が来場した。

●

「昭和９年」を耐えた 眠れる古建築が 複合店舗として復活。

十字街・銀座通り。往時の繁栄の名残を伝える建築物・旧衛生湯。このエリアに見られる大正後期築の耐火建築群のひとつで、1934（昭和9）年の函館大火でも倒壊を免れた貴重な建物だ。1970年代まで銭湯として営業した後は中華料理店や美容室として利用されたが、2010年代からは空き家のまま眠り続けてきた。しかしこのほど谷地頭町から移転営業する服飾店『晴耕雨読』と本屋『庶暮（しょぼ）書房』が1階に、そして整体の『奈良岡整体』とエステサロン『sawa TDee（サワディー）』が2階に入居する複合店舗として復活。銀座通りにまた一つ新しい灯りがともる。

写真は2022年5月時点のもので改築中の状態。

ここでしか味わえない 景色と空気と いつか味わった懐かしい味。

市内有数の観光地であり景勝地・立待岬。その敷地内にある売店『はまなす』は1964（昭和39）年開業。販売しているのは名物のほたて串焼きやつぶ貝、焼きとうもろこし、揚げじゃが、フランクフルトなど。祭りの屋台のような品書きに心が躍る上、2代目の現店主は市内本通で居酒屋も営む板前だ。贔屓にする客の中にはおでんやそばの出汁が「本格的」と太鼓判を押す者も多い。しかし当の店主は「おでんやそばに関してはおすすめしてません。下に行けば美味しい店がいっぱいあるよって伝えてます（笑）」。営業は毎年4月下旬から10月下旬頃まで。

開店時間は10時～17時が目安。生ビール等もあるので外呑みスポットとして密かに人気。

西部地域振興協議会 発行 WEST（ウエスト）

函館市西部地域振興協議会は、函館の中心市街地（駅周辺）から西部地域を「はこだての原風景」と認識し、観光の街はこだての魅力向上と活力ある街づくりを目的に1993（平成5）年に設立しました。
そして昨年、コロナ禍においても地域の魅力を伝える活動だけは継続したいという思いから、この冊子『WEST』（写真はvol.1表紙）を創刊。本誌を通じ、改めて西部地域に目を向けていただけると嬉しいです。

函館市西部地域振興協議会 会員一覧

※50音順、敬称略／会員数154(令和4年3月31日現在)

●町会
青柳町
旭町町
入舟町
大町
大手町
大森町
大縄町
海岸町
上新川町
栄町
東雲町
新川町
末広町
住吉町
第二船見町
千歳町
天神町
豊川町
東川町
船見第一町
弁天町
宝来町
松風町
松川町
元町
弥生町
若松町
町会連合会西部地区協議会

●法人
(株)青森銀行函館支店
アサヒビール(株)道南支店
浅野圭介
(株)池見石油
医療法人社団一色肛門科医院
伊藤商事(株)
(株)イナリ
(株)魚長食品
梅田(株)
(株)梅谷商店
ＮＴＴ東日本ー北海道南支店
江口眼科医院
(株)エスイーシー
大森稲荷神社
大槻食材(株)
(株)ガイアクリエーション
金森商船(株)
(株)上出新聞店
(株)梶原昆布店
(有)金子商事
(有)神田北洋堂
川村隆夫
北日本石油(株)函館販売支店
及能(株)
(有)木村印判店
興和商事(株)
(株)五興
五稜郭タワー(株)
(有)今商店
(株)マル生古清商店
医療法人社団向仁会
サッポロビール(株)道南支社
(有)真光堂
(株)十一屋
(株)ジャックス函館支店
(協)十字街商盛会
(株)十字街むさしや
社団医療法人尚仁会
(有)杉本工作所
(株)薄田測量設計事務所
(株)千秋庵総本家
(株)青函設備工業
相馬(株)
大明工業(株)
(有)大正機械
(株)高木組
(株)太刀川
社会医療法人高橋病院
(株)タマル産業
マル高高井水産(株)
(株)高橋組
(株)大二物産
竹澤俊哉
武田勇孝
チガイショウ青山水産(株)
(株)ツグミ
道南石油(株)
(有)道新いけまつ
道南うみ街信用金庫
成田山函館別院
中島孝内科循環器科医院
(株)二本柳慶一建築研究所
ニューオーテ斉藤(株)
日新産業(株)
(株)布目
野村證券(株)函館支店
(株)ノース技研
函館都心商店街振興組合
函館朝市協同組合連合会
函館魚市場(株)
(一社)函館国際コンベンション協会
函館観光写真(株)
(一社)函館建設業協会
(株)函館国際ホテル
函館護国神社
(一社)函館歯科医師会
社会福祉法人函館市社会福祉協議会
函館自由市場協同組合
函館商事(株)
(株)はこせき
函館どつく(株)函館造船所
函館バス(株)
函館八幡宮
(株)函館ビヤホール
函館ホテル旅館協同組合
函館山ロープウエイ(株)
函館海運(株)
坂内タイル工業(株)
浜津会計事務所
(有)函館厚生商事
函館水産物(株)
畠山はり灸院
ハコー印刷(株)
函館タクシー(株)
医療法人社団山樹会平山内科医院
(有)ビービーシー
(株)富士サルベージ
(株)富士メガネ函館駅前店
(株)ふじでん
(有)船岡商店
(株)北洋銀行函館中央支店
(株)北海道銀行函館駅前支店
ホテルリソル函館
本郷計測機(株)
北海道ガス(株)函館支店
北海道新聞函館支社
北海道コカ・コーラボトリング(株)
本間整骨院
北船興業(株)
前側石油(株)
(株)丸山園茶舗
(株)ま印水産
(株)manabit
(株)丸豆岡田製麺
(株)みちのく銀行函館営業部
(株)ムロタ
村山ギソー(株)
医療法人聖仁会森内科
(株)森川組
(株)山伝吉田
(有)山二男澤商店
山本鉄工(株)
(株)山矢商会
有泉堂眼鏡店
(株)旅館ららぽーと函館
(有)和田鮮魚店

国際都市としてさらなる発展を　未来に羽ばたくまち函館
WEST 函館市西部地域振興協議会